回想法センター便り・2月号

平成２９年　１月２５日発行
発行　龍ケ崎市回想法センター
龍ケ崎市平台 5-9-7
電話・FAX　0297－65－4443
e-meil pia-kaiso@etude.ocn.ne.jp
ｈｐ　wwwpiakaiso.sakura.ne.jp

穏やかに暮らして行きたいな

「ハーフ」じゃない「ダブル」

コスタリカ人の父と日本人の母の間に生まれた少年。父親は、息子に『ハーフ（半分）ではないダブルだ』と言って聞かせてきました。息子も、日本と同じくらいコスタリカのことを知って自信を持って『ダブル』と言えるようになりたいと。

志望校の合格判定が『D』だった中学生は、従兄から『駄目の「D」じゃない『大丈夫の「D」だよ』と言われ、この言葉を支えに頑張って志望校に入れたと。

認知症の祖母に『どうせ私のことも忘れるのでしょう』と言ってしまった孫娘に、祖母は『脳では忘れるかもしれない。でも、心では絶対に忘れないよ』と孫娘に答えた。言葉には不思議な魅力、力が潜んでいるみたいです。

言葉にも『ありがとう』『また明日』などありふれた言葉でも、その言葉が出てくる背景は様々です。どんな小さな事でも人にしてもらった事には「ありがとう」と言っていた母は、一日何回ありがとうと言っていただろうか。私も、母のようにどんなに些細な事でも『ありがとう』と感謝の気持ちを伝えられる人になりたいと思います。

命のお守りがあったら

何時も買い物に行くスーパーで買い物をし店を出たら帰り道が分からなくなってしまった友人は、一人で家を出るのが恐怖で家に閉じこもるようになってしまった。夕方になると、息子が帰ってくるから早く家に帰ってご飯を作らないといけないと、自宅を出ようとして家族を困らせている方など、家族にとって徘徊は厄介な問題です。

いつも待ち合せている場所に奥さんが現われづ一晩中奥さん帰りを待っていたご主人の「徘徊は、命がかかっている」の言葉に家族の苦悩が感じ取れます。思いだされるのが、認知症の高齢者が列車にはねられてなくなった事故です。鉄道会社は家族に賠償を求め、一審、二審では家族に責任があるとの判決が出されたことです。最高裁で家族に責任はないとの判決が出ましたが、高齢者を抱える多くの家族に取っては衝撃的な出来事でした。

迷い歩く本人も大変なら、探し歩く家族も大変です。本人にも家族にも、経済的で高齢者の尊厳を傷つけない「命のお守り」の開発が待たれます。

２月の予定

２月　３日（金）	認知症家族会あおぞら		ショッピングセンターリブラ１階
２月　９日（木）	うたごえ広場　２時～４時		ショッピングセンターリブラ１階
２月１５日（水）	笑顔屋	１０時３０分～１２時	ショッピングセンターリブラ１階
２月１８日（土）	川柳カフェ	１０時３０分～１２時	ショッピングセンターリブラ１階
２月２１日（火）	笑顔屋	１０時３０分～１２時	ショッピングセンターリブラ１階
２月２７日（月）	笑顔屋	１０時３０分～１２時	ショッピングセンターリブラ１階

問い合わせ先　龍ケ崎市回想法センター　　０８０－４２０９－５７０８　担当　赤嶺